

CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.0

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	千葉市新庁舎	階数	地上11F、塔屋1F
建設地	千葉市中央区	構造	RC造 一部 S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	3,230 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,970 時間/年(想定値)
建物用途	市庁舎	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2025年4月 竣工	評価の実施日	2025年5月23日
敷地面積	29,000 m ²	作成者	大成建設株式会社
建築面積	6,440 m ²	確認日	2025年5月23日
延床面積	48,889 m ²	確認者	大成建設株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 3.2 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	★ ★ ★ ★ ★ 30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI+で表示しています。	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.7	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.8	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 4.4
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 4.3	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 - 千葉県千葉市にある市庁舎である。 - 敷地は千葉都市モノレール市役所前駅に直結し、さくら広場や屋外テラスを設けることで街の拠点づくりを図っており、街路樹の形成など緑豊かな外部空間を確保している。 - 高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図り、LCCO2の排出量低減に努めている。		その他 - 地域の防災拠点としての機能があり、市民に開かれた空間形成とした。 - 明確なセキュリティ計画により、施設の一部を閉庁時にも利用可能な計画としている。
Q1 室内環境 - 開口部の遮音性を高め、屋内の音環境に配慮している。 - 執務室の照明器具は、細かく制御が可能であり執務者に配慮した照度設定が可能である。	Q2 サービス性能 - リフレッシュスペースを十分に確保し、オフィス空間の快適性向上を図っている。 - 基礎免震構造の採用や、非常用発電機の採用等を行い、災害時に必要な設備を確保している。	Q3 室外環境 (敷地内) - 敷地内や建物に積極的に緑化し、緑による良好な景観形成を行っている。 - 街道からさくら広場への動線を確保することで敷地内外の歩行者ネットワークを形成している。
LR1 エネルギー - 外皮性能を高め、建物の熱負荷を最小限に抑えるよう配慮している。 - 自然換気システムを導入しており、自然エネルギーの直接利用を行っている。	LR2 資源・マテリアル - 高強度の材料やリサイクル材等を採用することにより、非再生性資源の使用量削減に配慮している。 - 節水器具の採用、雨水利用システムの導入により、水資源保護に配慮している。	LR3 敷地外環境 - 敷地内の外構照明において漏れ光に配慮した計画としている。 - 廃棄物置場の設置、ゴミの量や種類の推計により、建物運用時における廃棄物の発生抑制に取り組んでいる。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2024年版 千葉市新庁舎			■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.0					
スコアシート		竣工段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.9
Q1 室内環境					0.40		-	3.7
1 音環境				3.8	0.15	-	-	3.8
1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音				4.6	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能:T-2		5.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		Dr-40		4.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		-	-	-	-	
1.3 吸音		二面(床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板)に吸音材使用		4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				3.9	0.35	-	-	3.9
2.1 室温制御				3.2	0.50	-	-	
1 室温		—		3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		断熱性能の高い外皮材性能を確保		4.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		—		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		加湿機能・除湿機能を有する		4.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		床吹出空調、パーソナル吹出口を採用		5.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				3.4	0.25	-	-	3.4
3.1 屋光利用				2.2	0.30	-	-	
1 屋光率		—		1.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		—		-	-	-	-	
3 屋光利用設備		ハイサイドライトによる屋光利用		4.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	
1 屋光制御		—		3.0	1.00	-	-	
3.3 照度		平均照度:754lx		4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		1作業単位以下で制御、自動照明制御		5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				3.8	0.25	-	-	3.8
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		天井裏を含めほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用		4.0	1.00	-	-	
4.2 換気				3.3	0.30	-	-	
1 換気量		30m3/h人以上		4.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		—		3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		—		3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		—		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙としている		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				—	0.30	-	-	3.8
1 機能性				3.5	0.40	-	-	3.5
1.1 機能性・使いやすさ				2.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		—		1.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応		—		3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化誘導基準を満たす		4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		—		3.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース:1%以上、自動販売機を設置		5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		建物コンセプトに基づく内装デザインがされている		5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した設計を行っている		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		清掃スペースを確保しており、維持管理用の機能を確保している		4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				4.3	0.30	-	-	4.3
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法等に定められた1.5倍の耐震性の保有		5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		免震装置を導入している		5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		—		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装仕上げ材を使用		5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		耐用年数が短くなるダクトは全面的にガルバリウム等を採用		4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				4.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		吊配管による地震時の影響低減などの対策がある		5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水機器の採用、非常時用排水槽の設置等		5.0	0.20	-	-	
3 電気設備		非常用発電機の設置、電源設備の地下設置回避等		5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラス:Aクラス		4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		精密機器の地下設置回避等		5.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
	3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	主要な階高:3.9m以上	5.0	0.60		-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.3未満、0.1以上	4.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり		—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	システム天井であり、仕上材を傷めず更新・修繕ができる	4.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	仕上材、構造部材を痛めず更新が可能である	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	仕上材、構造部材を痛めず更新が可能である	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	4.4
1	生物環境の保全と創出		外構および建物への緑化を行っている	4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮		まちなみに配慮した景観計画としている	5.0	0.40	-	-	5.0
3	地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性の配慮、快適性の向上への配慮	5.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	4.0
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.73	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用(直接利用)		自然換気システムを採用している	5.0	0.10	-	-	5.0
3	設備システムの高効率化		BEI=0.48	4.0	0.50	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4	効率的運用に向けた取組み			4.5	0.20	-	-	4.5
	集合住宅以外の評価			4.5	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	主要な用途別エネルギー消費内訳を把握できる	5.0	0.40	-	-	
	4.2	運用管理体制	運用における設備性能検証の実施方を計画している	4.0	0.40	-	-	
	4.3	非化石エネルギーの導入の拡大	蓄電池を導入している	4.0	0.10	-	-	
	4.4	コミショニングの推進	発注者要件を明確化し、必要に応じて更新している	5.0	0.10	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	4.3
1	水資源保護			4.2	0.20	-	-	4.2
	1.1	節水	自動水栓に加えて節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.4	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	雨水の利用がある	5.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			4.4	0.60	-	-	4.4
	2.1	材料使用量の削減	BCP材、QLデッキ等の採用	5.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメントB種を採用している	5.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	リサイクル資材を3品目以上採用	5.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	3.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	4.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	PRTR法に該当する有害物質を含まない材料を採用	5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	
	1	消火剤	不活性ガス消火設備を採用	4.0	0.33	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	GWP値の低い断熱材の採用	4.0	0.33	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮		ホールライフカーボンの排出率に配慮	4.2	0.33	-	-	4.2
2	地域環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
	2.1	大気汚染防止	—	1.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	指導された規模を上回る抑制対策量を確保している	4.0	0.25	-	-	
	2	污水处理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	駐輪・駐車台数を確保し車両出入時の混雑を避けた計画	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	敷地内に各種分別が可能なごみ置き場を設置	4.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外照明の漏れ光に配慮した計画	5.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2024年版

千葉市新庁舎

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		○	○	-		○	-	-	○	○	○		○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	8.0		-	○		○		○	○	○	○	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	4.0		-	○	○	○	○								
2.4.2 給排水・衛生設備	4.0	4.0	○	-	○	-	○	-	○						
2.4.3 電気設備	4.0	3.0	○	○	○	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	4.0		○	-	○	-	○	○							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	10.0		2.0	-	2.0	1.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	5.0		2.0	1.0	-	-	1.0	1.0							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0		-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0					
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0		-	2.0	-	2.0	-	2.0	-	2.0	-				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	1.0		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミッショニングの推進	2.0		○	○	○	○	-								
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	5.0		-	-	5.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	1.0	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	-	-	3.0	2.0	1.0	-	2.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0		1.0	1.0	1.0	1.0		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.6	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)	窓システム 3.3	屋根 0.5	外壁 0.8
住戸部分	窓システムU値 -	外皮UA値 -	η AC -
屋光率	0.7%		
自然換気有効開口面積率	2.6%		

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	-	/人	病床	-	/床	シングル	-	ツイン	-
コンセント容量	約40	VA/m ²							
天井高	2.6	m							
リフレッシュスペース	3.6%		レストスペース	-					
想定耐用年数	-	年							
想定必要間隔	15	年							
想定必要間隔	20	年							
想定必要間隔	15	年							
階高	4.05	m							
壁長さ比率	16.0%								
床荷重	2900	N/m2							

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	29%	建物緑化指数	15%
空地率	78%	水平投影面積率	6%
地表面対策面積率	25%	舗装面積率	53%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用(直接利用)

BPI/BPI _m	0.73	断熱等性能等級	対象外 相当
影響範囲の割合	85.0%	採光を満たす教室数	-
		採光を満たす住戸数	-
		通風を満たす教室数	-
		通風を満たす住戸数	-
		太陽光	.0kW
		太陽熱等	.0kW
		蓄電池	.0kWh
BEI/BEI _m	再エネ有 0.48	無 0.49	オフサイト再エネ有 -
一次エネ削減率	再エネ有	無	-

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	65.0%		
特定調達品目	磁器質タイル	エコマーク商品	ビニル床材、屋外用品
使用比率	0.0%		
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	0
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	675~2090

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	145%	隣棟間隔指標R _w	0.99
地表面対策面積率	32.0%	屋根面対策面積率	8.0%
外壁面対策面積率	0.0%		
見付面積S _b	5,756m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	199.175 m
基準高さH _b	19.92 m		
緑地	6,394m ²	水面	m ²
保水性対策面	m ²	高反射対策面	m ²
再帰性反射対策面	m ²		